

令和3年度
新潟県病害虫発生予察速報第8号
(ねぎのシロイチモジヨトウの被害に注意)

1 発生状況

- (1) フェロモントラップによる誘殺数(図1)は、聖籠町真野(園芸研究センター)では、8月上旬に誘殺ピークが見られ、概ね平年並であるが、胎内市菅田では、8月中旬から急増し、平年を大きく上回っている。
- (2) 防除所が実施した秋冬ねぎの巡回調査では、7月後半調査以降被害株が確認され(図2)、8月後半の調査では、巡回調査5地点3地点で被害株が確認され、被害株率は平均4.00%(平年0.64%)で平年比多く、内2地点で若齢～老齢幼虫の寄生が認められた。

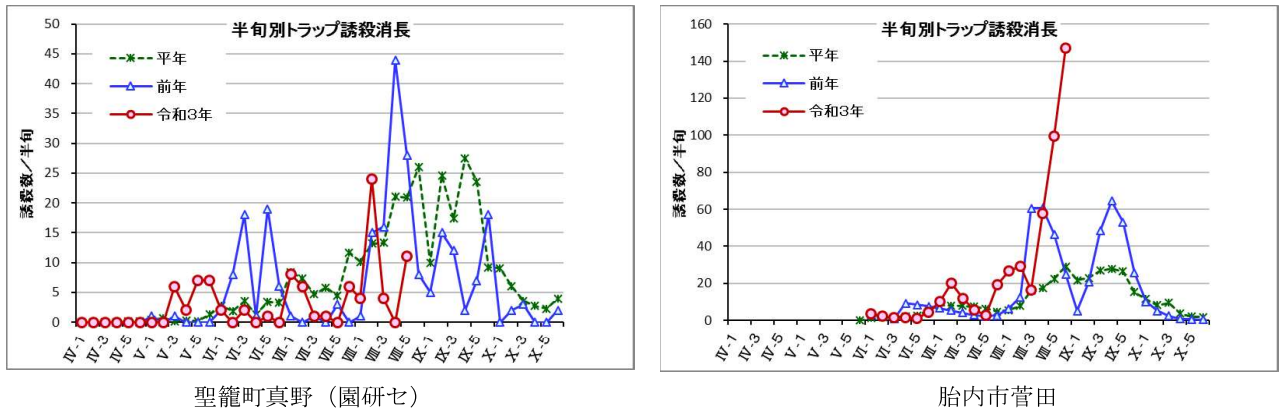


図1 フェロモントラップ誘殺数の推移^{注1)}

注1) 胎内市菅田は、誘殺数を調査期間で除して日平均誘殺数を計算し、半旬単位に再計算したデータをプロットした。

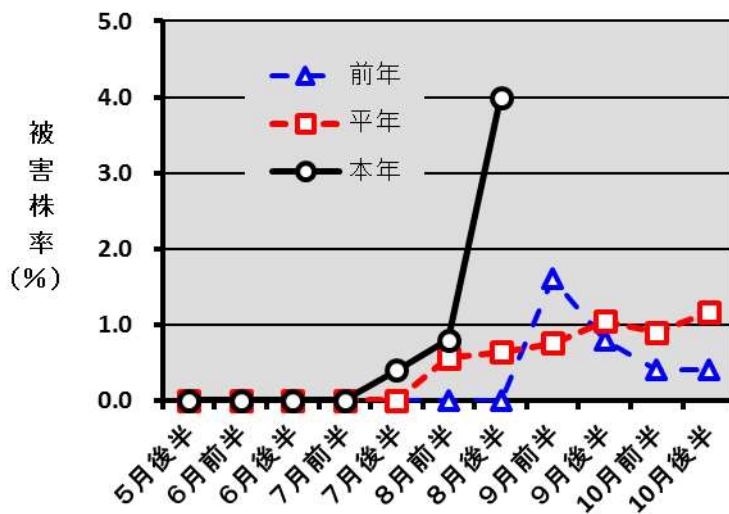


図2 ねぎほ場におけるシロイチモジヨトウ被害株率^{注2)}の推移

注2) 防除所巡回調査5地点(村上市、胎内市、新発田市、新潟市北区及び東区のそれぞれ1地点)の平均値

2 対策

- (1) 今後、ねぎでは被害の拡大が懸念される。被害及び卵塊、幼虫を認めた場合は薬剤防除を実施する。中・老齢幼虫は薬剤感受性が低下し、ねぎでは葉の内部に潜り込んで薬剤による防除効果が低下するので、ほ場をこまめに見回り、若齢幼虫期に防除を行う。
- (2) 卵塊や分散前の若齢幼虫は捕殺も有効である。
- (3) 被害葉及び収穫残さは本種の発生源となるので、残さは一か所にまとめて積み上げ、表面をビニール等で被覆するなど適切に処分する。
- (4) 本種は寄主範囲が広く、ねぎ以外の野菜類、花き類を加害するので注意する。